



エリート騎士の 墮落TS

~男に戻れたのに再び
TSサキュバス堕ちしちゃう騎士様~

原作: 着こむ人 作画: 倉塚りこ



うわっ

ずりずり

なんだ
この下級サキュバス…
淫乱にも程があるぞ

戦闘中に
自分を倒した相手に
サカるだなんて

はーっ
はーっ

とろお…

救いようがない
変態だな

俺はサキュバス
なんかじゃない…♡

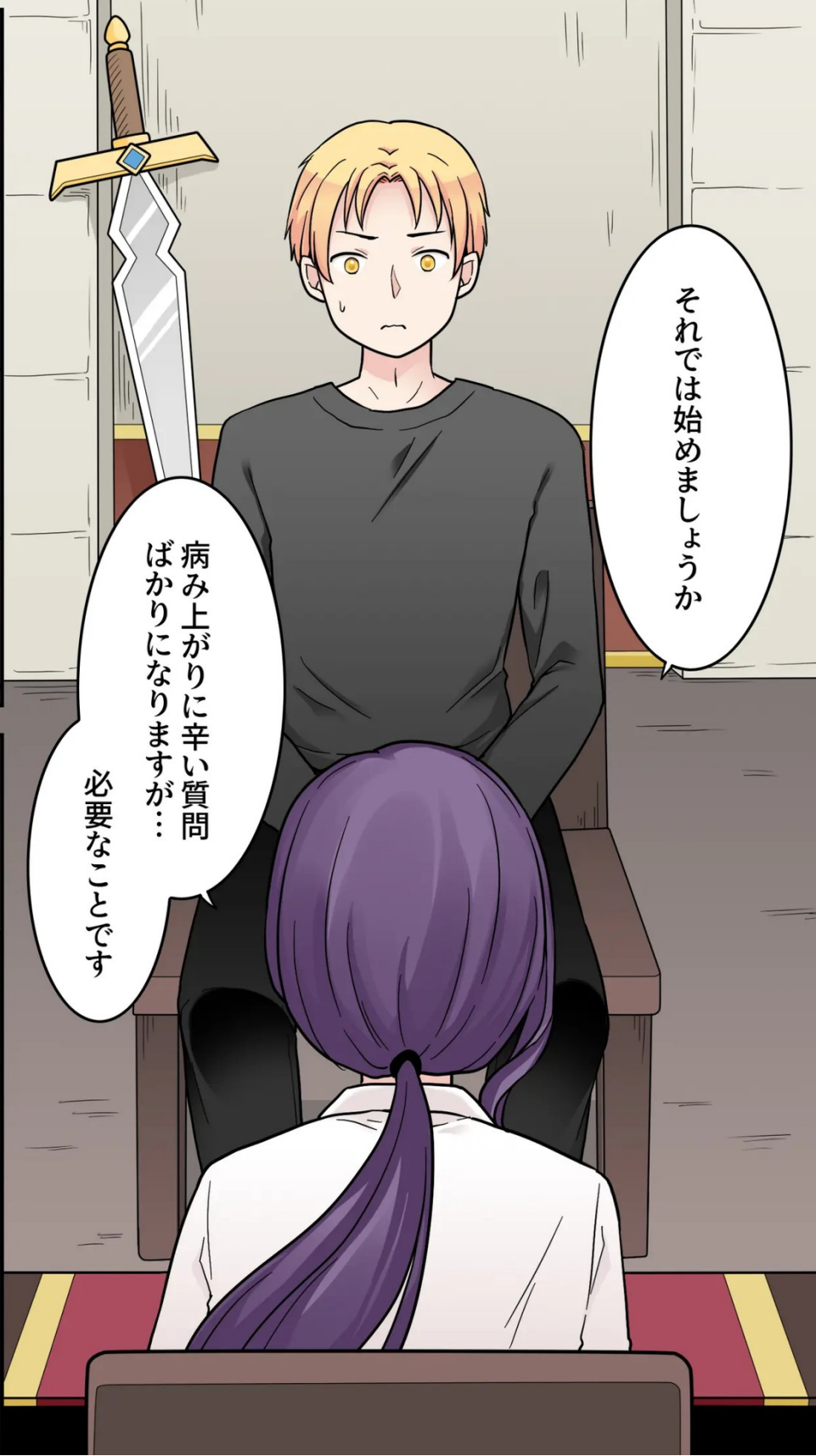
気づいてくれえ…♡

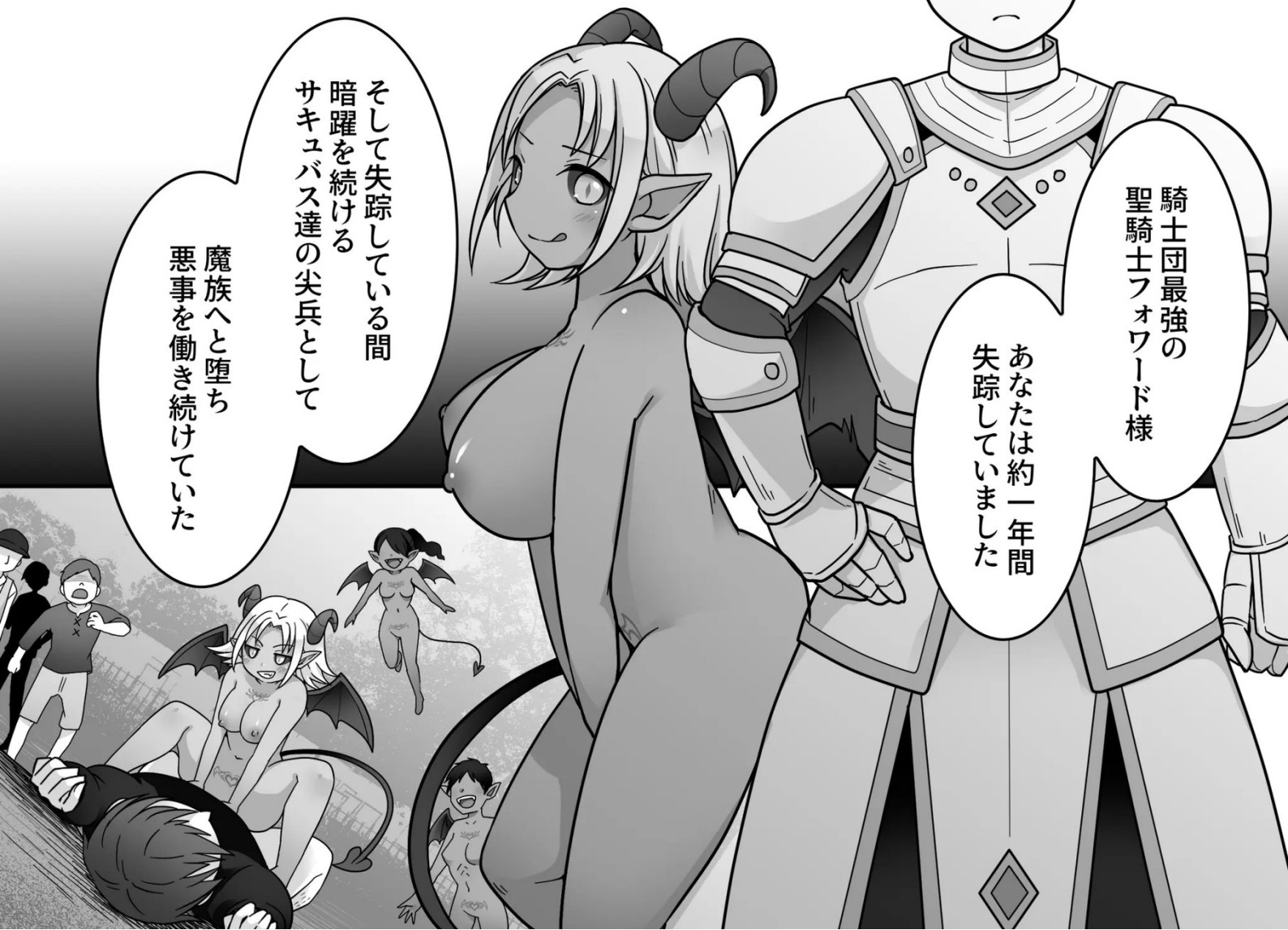
ちがう…!!
みんな…!!

くちくち
くちくち
くちくち

数日後

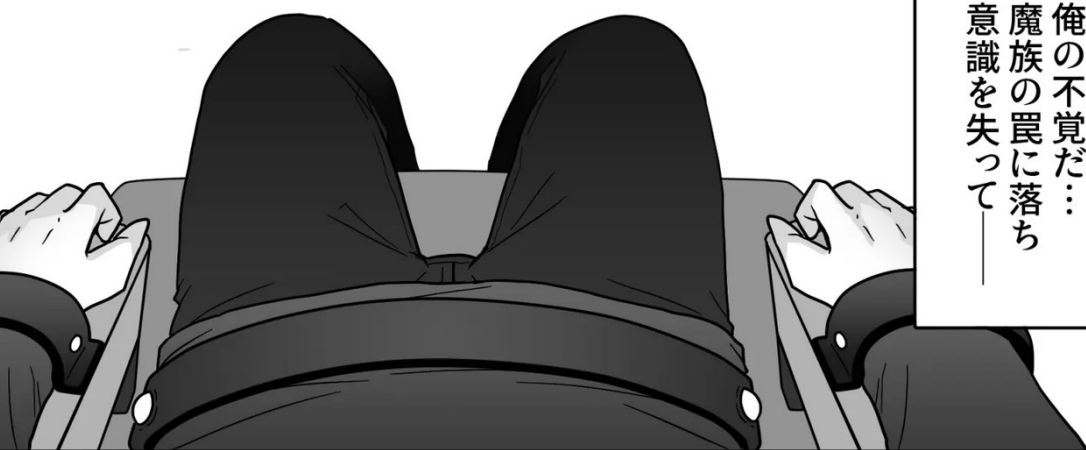
エンペル騎士団本部







これがつい先日
判明したことです



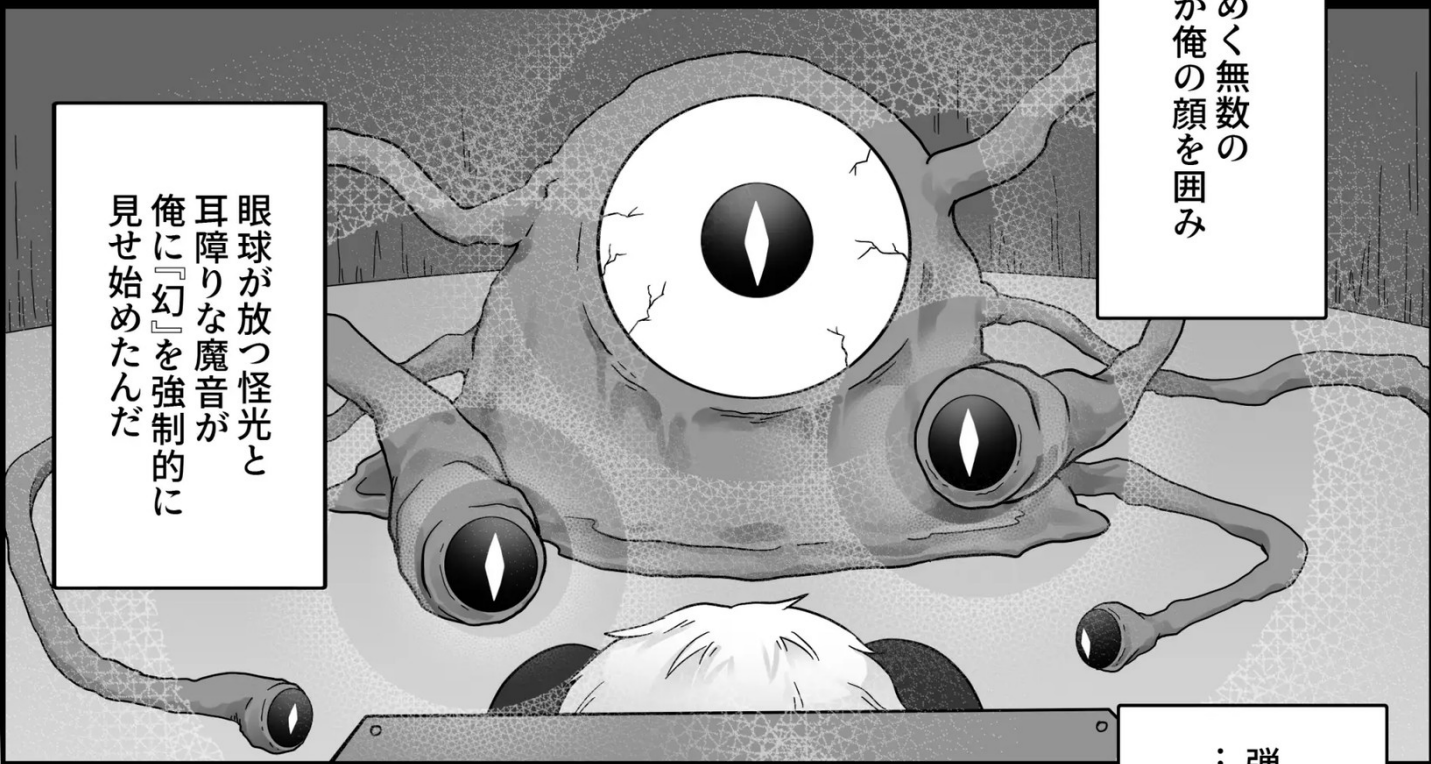
俺の不覚だ：
魔族の罠に落ち
意識を失って――

次に気がついた時
俺は冷たい石牢の中で
身動きが取れないよう
拘束具に繋がれていた



周囲には同じように
捕らえられた領民たちの
怯える姿





うごめく無数の
触手が俺の顔を囲み

眼球が放つ怪光と
耳障りな魔音が
俺に『幻』を強制的に
見せ始めたんだ

弾き返そうとしたが
……無駄だった

光と音が
頭の奥にこびりついて
思考を塗り潰していった



幻とは？



おそらく洗脳型
もしくは寄生型の
魔物ですね……

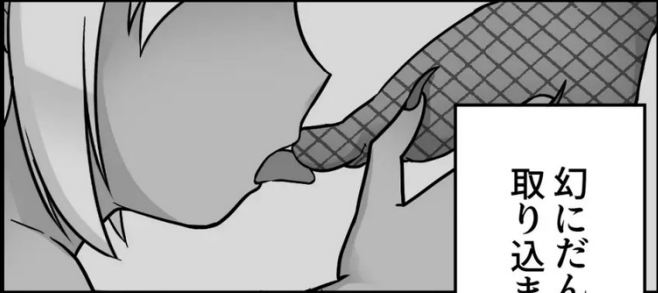


まるで、俺自身が
下級サキュバスに
なったかのような
錯覚とともに…

……ああ、見せられたのは
上位サキュバスたちに忠誠を誓う
下級サキュバス視点の映像だった

ただのまやかしだ
くだらない

と思っていた
はずなのに…ッ



幻にだんだん
取り込まれっ…

俺は幻の中で
下級サキュバス
そのものになり

上級サキュバスたちに
忠誠を誓っていた…ッ



頭の中が、甘い痺れで
真っ白になった……

騎士としての誇りなど
どうでもよくなるほどの
圧倒的な悦び

俺は幻覚の快感に溺れ
気づけば……お姉さまたちに
忠誠を……ッ♡

幻が終わると
あなたは幻の中の
下級サキュバスと
同じ姿になっていた

今のあなたのように。
そうですね？

えっ…？

あっ!!?!

どうして…

ここまでにしますか？

サキュバスへと堕ちた時の
快楽を思い出した事により
解呪の魔法が弱まって
しまったようです

いいや…
だ、大丈夫だ
続けさせてくれ



現実に戻ると…
“わたし”は
下級サキュバスに
なってしまった

醜い角に不気味な肌

悪魔の翼に…
フェロモンをまき散らす
下品で淫らな娼婦のような
メスの身体…♡



化け物に成り果てた
はずなのに……

これでやっと
お姉さま達に思う存分
ご奉仕できるんだって、
心の底から嬉しいものに
思えてしまったんだ……♡



だが
そこに現れたお姉さ…
一匹の上位サキュバス…!



俺は騎士としての
意識も理性も取り戻し
殴りかかろうとした…

しかし



跪け、
雑魚ども

そのお言葉を
聞いた瞬間

わたしはお姉さまへと
額を擦りつけて
いましたあっ♡

“…おかしい！
こんなの違う！”

そう思っているのに
この下級サキュバスの身体は
絶対に上位の存在には
逆らえなかったのです…♡

貴様は
手間をかけさせた
騎士ですね？

どうです？
ただのその他大勢の雑魚
下級サキュバスに堕ちた気分は

ひゃっ…ひゃいっ♡♡
しゃいっ♡でしゅっ♡♡

ありがとう
ごぞいましゅっ…♡



そ、そこからの
下級サキュバスとしての
日々は…

す、すばらし…
ちがう、最低な
屈辱の日々だった…♡

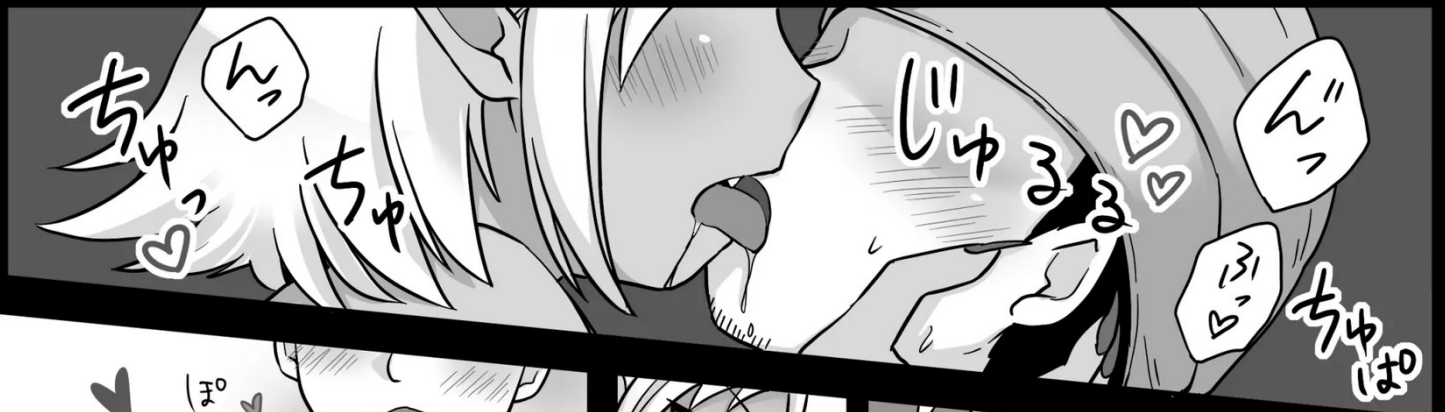
う、
つわあああ！
魔物だあああ！



みんな逃げろ！
サキュバスたちの
襲撃だーっっ！

ぎひひひっ♡
オトコ…オトコオ…♡♡

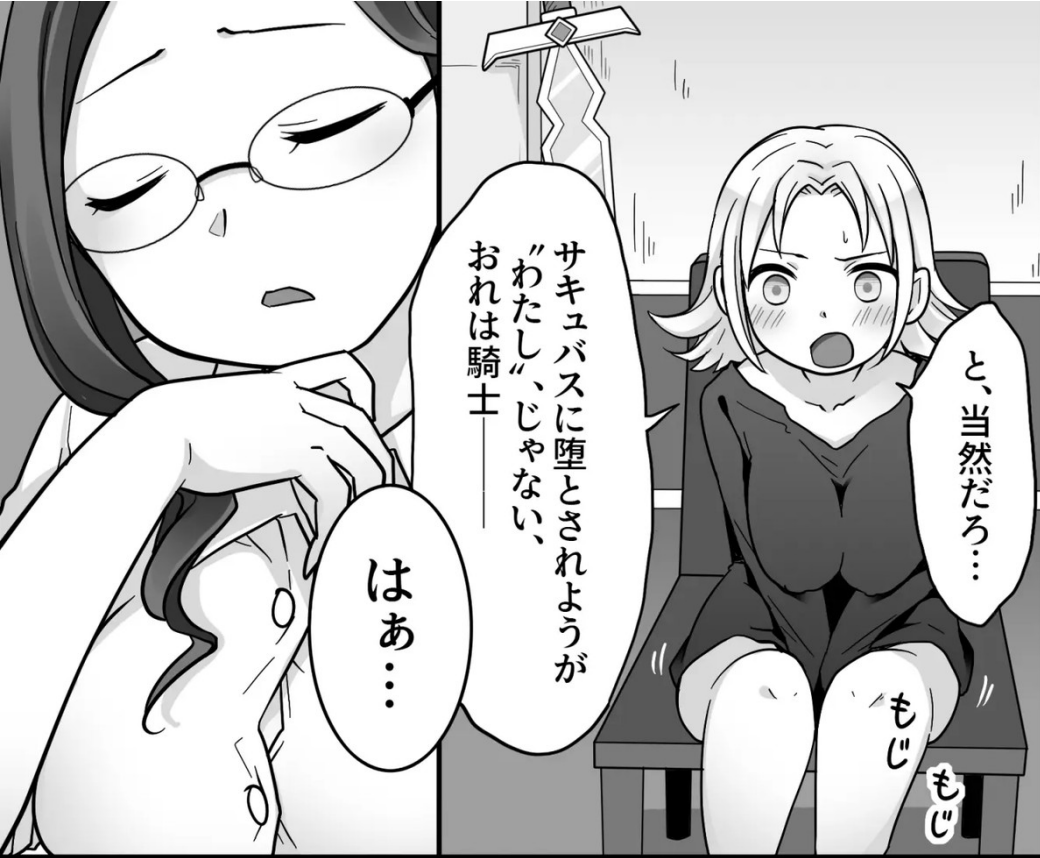
違う…っ♡
こんなこと、逃げ出して
皆に伝えなくては
ならんのに…♡♡





と
ふ
の
ま

後ろを向きなさい





騎士の誇りとか
使命なんて
どうでもいい♡

わたし
生まれてきて
よかったあ♡
って…///



なるほど

それで？



はいっ♡

お姉さまの
おちんぽの
大きさとハリが
すごくてえ

わたしのおまんこの
ひだひだをエラで
蹂躪するみたいに
めちやくちやにしてえ…♡♡

ふひひっ♡♡



お姉さま方の前で
オナニーをさせられた
なんてこともありましたあ…♡♡

暇つぶしと称して
わたしに理性と鎧を
返していただき

き、キサマらっ…
絶対に許さ…

ん♡おっ♡

おわあ…♡



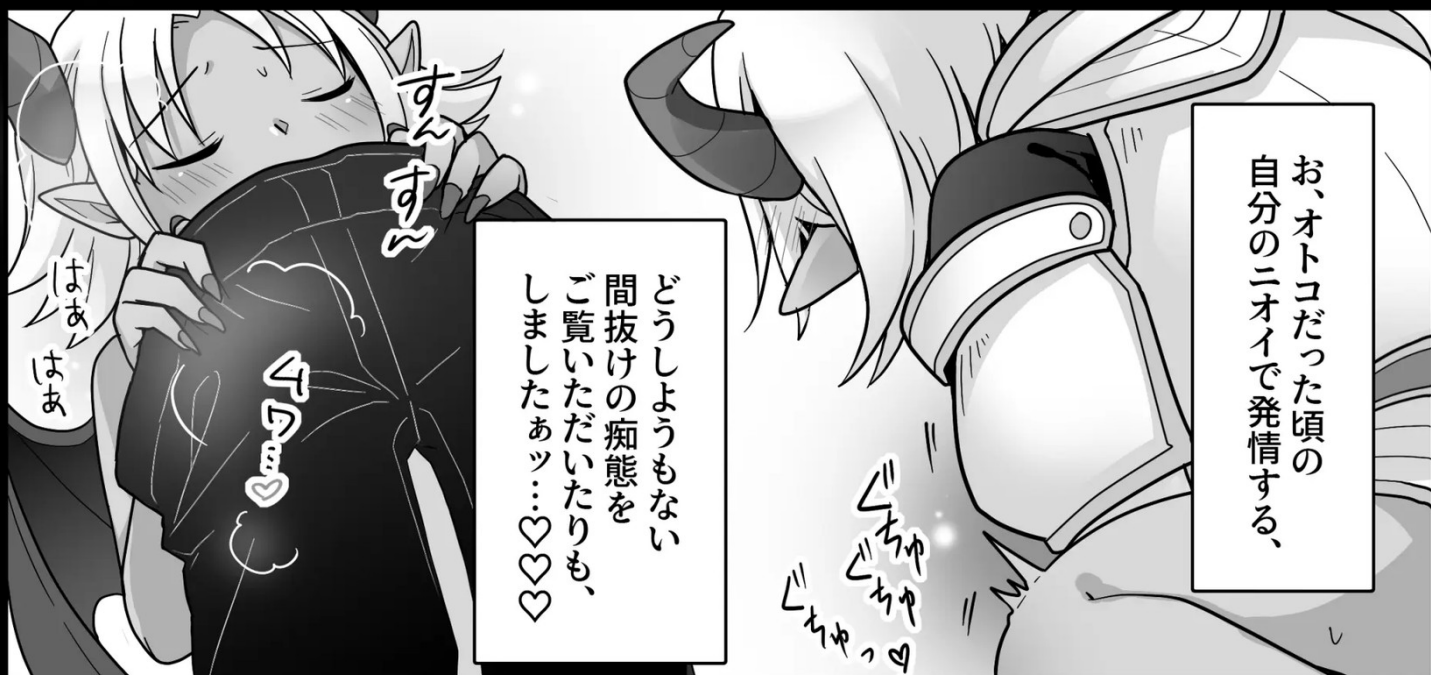
こ、このオスのニオイ
しゅごいつ♡♡♡♡

嗅ぐの
やめらんない♡♡

んほっ…♡
ダメっ♡

こんな濃厚なオスの臭い嗅いで
ガマンできるわけにやいゝ♡♡♡♡

んほっ♡



お、オトコだった頃の
自分のニオイで発情する、

どうしようもない
間抜けの痴態を
ご覧いただいたりも、
しましたあッ…♡♡♡♡

すんすん♡

んほっ♡

はあ、はあ

んほっ♡
んほっ♡
んほっ♡

なるほど

下級サキュバスの本能の前には
騎士の誇りなどカスの役にも
立たなかったという事ですね？

ガタッ

ちっ、ちがうつ…♡

俺は、最後まで
聖騎士として抗って…!!!

話の途中でですよ
他には何を？

う、うう…!!!

お姉さまの御背中を
洗わせていただいたり…

しましたあ…♡

くっ…

聖騎士であるこの俺がつ
魔族などの身体をつ…!!

ああ…でも、

お姉さまの身体、なんて麗しい…♡

漂ってくるフェロモンだけで

頭が馬鹿になっちゃう…♡

ヒキ
ヒキ

すん
すん







お、おねえさまあつ……♡
おねえさまあつ……♡

はあっ……♡
はあ……♡

くね
くね

こんなに簡単に
サキュバスにまた
戻ってしまう

ふむ
なるほど
やはり解呪の魔法は
不完全ですね

へ……？

あ
ああつ！！

ちっ…違う！
違うんだっ！！

こ、これは
おれは、聖騎士で…
この姿は
呪いのせい…！！

違いますよ
あなたは聖騎士なんか
ではありません

上級サキュバスに
顎で使われ
奉仕することだけが
生きがいの愚かな使い魔

ただの淫乱な
下級サキュバスです

!?

な…
何を言ってる…
はっ

70千

バサッ





サキュバス
だったのか!!

きつ…
きつ…
きつ…ッ!



最強の聖騎士が
元に戻ったと聞いて
出向いてみれば
この有様ですか
……無理をして
人間のフリを
せずとも結構ですよ

ニンゲンの
解呪魔法など
たかが知れて
いますね

じり
じり



俺はもう屈しない……!
今度こそ
お前たちを討つ!

黙れ……!!



あなたはもう私たちに跪き

奉仕する悦びから抜け出せない
下級サキュバスなのですから

威勢がいいですね…

でも聖騎士ぶるのは
やめなさい

さっさとその
ガラクタを捨てなさい

あなたには
這いつくばる姿が
お似合いです

寝言を
言うなっ♡

俺がまた
貴様らの慰み者に
なるなど——ッ!?

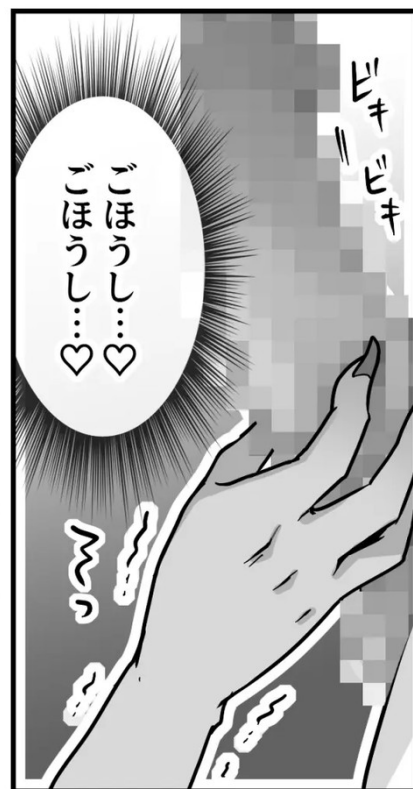
ビキッ





おねえさまのおちんちんに

ごほうし…♡♡♡



ビキビキ

ごほうし…♡
ごほうし…♡

〜っ



ダメだっ…
もうッ…♡♡♡

ぢゅは

ぢゅは

ぢゅ

ぢゅ

ぢゅは

ぢゅは

よっぱど溜まって
いたようですね

ペニスを見せただけで
馬鹿のように
むしゃぶりつくなんて



こんなの勝てるわけないっ♡
我慢できるわけないっ♡

こんなの見せられて
オスの心なんか保てるわけない♡
メスになるしかないっ♡



あーっ

すごいっ♡
太くてかっこいい♡
おねえさまのおちんぽ
最高っ♡

現実を直視しなさい
貴様はもう
人間ですらない

私たちに
奉仕するためだけに
生かされている

最下層の使い魔に
過ぎないのです

ちゅぽ
ちゅぽ

ああ……♡

おれは、
騎士ファワード
ではない……♡♡

下級サキュバス……♡♡

じゅぽ
じゅぽ

じゅぽ

命令されなければ
快楽すら得られない
哀れなメス

我々が
使ってやらなければ

ただ発情して
朽ちるだけのゴミ
同然です

くち
くち

ちゅっ
ちゅっ

ぐちゅ
ぐちゅ

お姉さまがたの
所有物……♡♡





さて
何か私に
言いたいことが
あるのではないですか？



わたしを、また
下級サキュバスに戻して
くださって

おっ
おねえさまあっ♡

ありがとう
ございますうっ……♡♡